

第 60 回研究所セミナー 抄録

日 時

平成 25 年 1 月 22 日 (火)

17 : 45 ~ 19 : 30

場 所

北野病院 5F 第 1 会議室

臨床現場から展開できる
多彩な研究のあり方を求めて

研究発表

総合司会

研究所副所長 武曾恵理

発表

イブニング薬カンファレンス

「高血圧治療薬“アイミクス配合錠”について」

大日本住友製薬(株)

第7・8 研究部

研究発表

～座長 中村 肇～

演題Ⅰ

「LAMP-TB の使用経験」

臨床検査部 宇野将一

演題Ⅱ

「人間ドックにおける高感度CRP検査の

有用性について治療成績の検討」

健診部 高森行宏

～ 座長 奥村亮介～

演題Ⅲ

「MR 最新トピックーRSNA2012 報告＝」

(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン ヘルスケア事業部

マーケティング本部 MR モダリティースペシャリスト

廣瀬加世子 氏

LAMP-TB の使用経験

宇野将一¹⁾

財) 田附興風会医学研究所 北野病院 臨床検査部¹⁾

【背景】

結核は、空気感染により伝播するため、早期に診断し適切な空気感染対策を行う必要がある。結核の迅速診断には、PCR 法による結核菌群 DNA の検出が広く普及しているが、集菌処理が煩雑であるなどの問題があった。

Loopamp 結核菌群検出試薬キット（以下 LAMP 法）では、煩雑な集菌作業を必要とせず、検体の提出から約 2 時間での報告が可能である。

当院では、2012 年 6 月より LAMP 法を院内検査として導入した。この経験について報告する。

【PCR 法との比較検討】

導入に向けて PCR 法との比較を行った。対象は 4 ヶ月以内に抗酸菌検出陽性の履歴がない塗抹陽性患者とし、LAMP 法と PCR 法にて結核菌群 DNA の測定を行った。総検体数は 22 件で陽性一致率は 100% (10/10)、陰性一致率は 91.7% (11/12)、全体一致率は 95.5% (21/22) であった。LAMP 法は PCR 法に比べて、塗抹陰性の場合の検出感度が低いことが報告されているが良好な一致を示した。不一致となった一例は、培養により結核菌群を認めた。

【導入後の実績】

LAMP 法導入後、12 月までの 7 ヶ月間で 42 件実施し、LAMP 法陽性は 13 件、陰性は 29 件であった。

【まとめ】

LAMP 法の導入により、塗抹陽性判定後迅速に結核の確定・否定を行うことが出来、早期の治療開始及び、不要な空気感染対策の削減につながった。

LAMP 法は塗抹法とあわせた評価が必要であるが、検体処理が簡便であるため結核の迅速診断に有用である。

人間ドックにおける高感度CRP検査の有用性について治療成績の検討

高森行宏¹⁾

財) 田附興風会医学研究所 北野病院 健診部¹⁾

【目的】

CRP は急性期蛋白であり、炎症や組織障害があると高値となるが、近年の技術進歩により低濃度のCRP測定(高感度CRP)が可能となり、慢性炎症レベルでの動脈硬化や冠血管疾患との関連が示唆されている。当人間ドックにおいても2010年9月より導入し、保健指導等に利用している。今回、当人間ドックでの測定結果から改めて評価してみた。

【方法】

2010年9月から12月までの当センターで人間ドックを受診された1098名(平均年齢54.9歳)、男性582名(平均年齢56.2歳)女性516名(平均年齢53.5歳)を対象とした。また再度検討を加えた30歳代男性については、2011年1月から12月までの当センターで人間ドックを受診された189名(平均年齢 35.5 ± 2.6 歳)を対象とした。高感度CRP値については、 0.1mg/dl 以上を陽性とした。

【結果】

全体での高感度CRPの平均値は $0.099 \pm 0.37\text{mg/dl}$ であったが、男性では $0.13 \pm 0.50\text{mg/dl}$ 、女性では $0.06 \pm 0.13\text{mg/dl}$ であった。各年代別で高感度CRPの平均値を見てみると男性では、30歳代 0.14mg/dl 、60歳代 0.18mg/dl 、70歳代 0.21mg/dl 、80歳以上 0.13mg/dl と陽性であり、女性では60歳代 0.10mg/dl 、80歳以上 0.17mg/dl と陽性であった。この結果をふまえ、特定保健指導の対象者と合わせて、男性は30~69歳、女性は40~69歳

までについて、高感度CRP陽性群と陰性群(男性484名、うち陽性者98名、女性362名、うち陽性者48名)に分けて、各群間でのBMI、血圧、脂質、尿酸、血糖値について比較検討した。男性では、BMI、収縮期血圧、HDLコレステロール、中性脂肪、尿酸値、HbA1c、女性ではBMI、HDLコレステロール、中性脂肪、尿酸値、血糖値、HbA1cにおいて有意差がみられた。

さらに検討を加えた30歳代男性では、高感度CRPの平均値は $0.090 \pm 0.283\text{mg/dl}$ であり、平均値は陽性ではなかったが、高感度CRP陽性群と陰性群に分けて、各群間でのBMI、血圧、脂質、尿酸、血糖値について比較したところ、BMI、HDLコレステロール、中性脂肪、尿酸値、HbA1cにおいて有意差がみられた。

【考察】

今回の結果でも高感度CRP検査は、他の生活習慣病のリスクファクターと深く関連しており、高感度CRP検査値からも生活習慣病を予防していくための積極的な指標となり得ること、また男性では30歳代からの積極的な指導が必要であると示唆された。

MR 最新トピック－RSNA2012 報告－

廣瀬加世子 氏¹⁾

(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン ヘルスケア事業部
マーケティング本部 MR モダリティスペシャリスト¹⁾

昨年末シカゴ マコーミックプレイスで開催された RSNA2012 において紹介された、フィリップス MR の最新トピックスをご紹介します。

RSNA2012 は、98 回目を迎え、約 5 万 3 千人が参加しました（昨年比 9%マイナス）。応募演題数は 12,919 と昨年より 600 演題も多く応募があったそうです。

フィリップスは、長さ 50m という展示企業中でも最大面積のブースを構え、“Imaging2.0_Transforming care together. (現場に密着し、共に患者のケアに寄り添うこと)” をコンセプトに MR だけでなく、PET や CT、CV、一般撮影、外科用 C アーム、X 線マンモグラフィ、ネットワークなど全てのモダリティが共通のコンセプトをもつ総合画像メーカーとしての大きな展示を展開しました。

MR ブースでは、昨年 4 月の JRC で初登場した Ingenia1.5T/3.0T が展示の中心となりました。お陰様で 60 サイトを超える国内ご施設にご導入いただき、RSNA2012 でも多くの日本国内のご施設に展示画像のご協力を頂戴しました。その他にも、PET/MR、MR_RT (薬事未承認)、HIFU (薬事未承認) といった次世代の画像診断装置の展示もありました。さらに、いずれのモダリティのブースにおいても、IntelliSpace Portal (薬事未承認) と呼ばれる、マルチモダリティ診断を可能にする新しいツールの展示もありました。

今回は、Ingenia1.5T/3.0T のご紹介を中心に、これらの新しいツールやアプリケーションも併せてご紹介させていただきます。

～今後のセミナーのご案内～

第 61 回研究所セミナー 平成 25 年 3 月 26 日(火)

場 所 5 階 第 1 会議室
時 間 18 : 00 ~
担 当 第 9 ・ 10 研究部

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

